

ヤンゴン工科大学において引き倒し実験と講義を行いました（2018/7/2-6）

テーマ：ヤンゴンの都市脆弱性評価

場所：ヤンゴン工科大学（ミャンマー連邦共和国、ヤンゴン）

災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野の村尾修教授は、科学技術振興機構（JST）と国際協力機構（JICA）の支援のもと、日本と開発途上国の研究者による共同研究を支援する研究プロジェクト「SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム）」に採択されている、「ミャンマーの災害対応力強化システムと産学官連携プラットフォームの構築」に携わっています。その一環として、7月2日から6日にかけて、ヤンゴン工科大学（Yangon Technical University）において村尾教授は、東京大学生産技術研究所の目黒公郎教授と郷右近英臣助教らのグループとともに建物脆弱性評価のための引き倒し実験を行いました。この実験は、ヤンゴン市内のスラム街に多く見られる建物構造の脆弱性を評価するために行われ、得られたデータに基づき脆弱な建物の地震による被害関数を構築することを目的としています。また圧力測定フィルムを貼り付けたマネキンを用いて、建物倒壊による人的被害の影響を分析することも目指しています。

また村尾教授は、大学院生を対象とした Urban Disaster Risk Reduction に関する講義を行いました。ここでは、日本における災害と都市防災向上の歴史的推移や、都市の災害リスクの測定方法、都市の脆弱性評価などを踏まえ、当該プロジェクトでどのようにヤンゴンの脆弱性評価を行なっているかについて解説しました。自国の防災について関心をよせ、熱心に研究している学生達と活発な討論、意見交換がなされました。引き続き、共同で課題解決に取り組んでまいります。



実験の様子（竹造）



実験の様子（簡易木造）



建物倒壊による人的被害への影響



講義の様子